

佳作

トンボへの道

東町小 長澤 桃子

私達は、三年生の時から、「ヤゴ救出大作戦」という活動を「そう合」の時間にやっています。なぜかというところ、泳が始まると、死んでしまうヤゴを助けるためです。

まず、去年の秋に、ヤゴがたまごを産むための、「イカダ」を作りました。そして、プールにうかべてあげました。

次に、去年の冬、プールの様子を観察しました。水が茶色にごつていて、ちよつと、きたなかつたです。でも、こういう場所では生きられないヤゴの事を思うと、この「きたない。」と言う言葉は、失れいと思えて来ました。そして、上からよく見てみると、小さなアメンボ・ヤゴのえさになるアカムシ・ゲンゴロウなど、ヤゴのほかにも沢山の虫がいました。

そして、春と夏の間は六月、ついにプールに入って「ヤゴ救出大作戦」が始まりました。「よし！」と息こんで中に入りました。最初に入ると、ドロが沢山あつてすべりやすくて、「こんなドロの中でころんだらどうしよう。」とか「虫いやだ、とりたくないな。」とか、いろいろ不安でいっぱい、手すりやかべからはなれられなくてとつてもこまりました。でも、友達や自分より一年下の三年生が手すり

なんてつかまず、中心のほうであみを持って地面を見ているすがたを見たら、こんな事をしている自分はずかしくなつて来て、がんばつて中心に行きました。なれて来ると楽しくなつて来て、やつと一びきとれました。この一びきだけだけど、この一びきを私がすくう事ができました。

そして、とれたヤゴは教室で一人一びきずつヤゴを飼いました。ほかの学年にもあげて、みんなでかいました。

三年生に、ヤゴの育て方を、くわしく教えてあげました。例えば、えさのやり方、赤虫をわりばしの先につけて、ヤゴの目の前でわりばしをふつて、赤虫が生きているかのように見せてえさをやる事などを教えてあげました。

そして、どんどんヤゴがトンボになつて行きました。トンボが飛んで行くのを見ているとき、心の中で「長生きしてね！」といいました。「私達の事、わすれないでね！」とうとう全てのヤゴがトンボになつて行き、もう、ヤゴをかう時は終わりました。

「ヤゴ救出大作戦」で、初めてヤゴをかえて、うれしかったです。私のマンションではかえないけど、生き物に少なきょうみをもつ事が出来るすてきな活動でした。(ヤゴ)この活動をして、トンボ(ヤゴ)や、ほかの虫のためにいろいろなお手伝いが出てうれしかったです。トンボ達もよろこんでくれているといいです。虫も私達と同じ、生き物なので、これからも自分に出来る事があれば、沢山の事をやつてあげたいです。